



3 水の恵みを訪ねて (楚原駅周辺)

コース 約12K 5時間

楚原駅→東光寺・子安地藏堂→上笠田城跡→事故現場
→覚通寺→蟻坂神社→雲納寺→めがね橋→ねじり橋→
観音堂→権現社→刻限日陰石→笠田大溜→いなべ公園
→楚原駅



北勢線

④事故現場



③上笠田城跡



① 東光寺



②子安地藏堂



三笠橋

500m

⑥蟻坂神社



⑤覚通寺



⑦雲納寺



⑧めがね橋



権現社

⑩観音堂



⑨ねじり橋

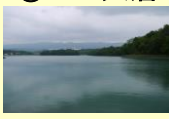


下笠田城主屋敷跡

⑫神明社・
厳島神社



⑬笠田大溜



旧7スレチック園の
前を通る

門の横を抜ける



⑭いなべ公園



員弁運動公園

員弁庁舎

ヨシツヤ

楚原駅



3 水の恵みを訪ねて（楚原駅周辺探索マップ）



製作：北勢線の魅力を探る会 平成 27 年 6 月

連絡先：代表近藤 TEL 080-3073-3313

① 笠田山東光寺 ② 子安地藏堂

真宗仏光寺派。天正年間(1573～91)、京都久遠院第10世昌通法師が、近江国栗太郡常盤村(現滋賀県草津市)に一寺を建立して東光寺と称した。明治43年(1910)第13世林潜隆師の時、現在地に移転、笠田山東光寺となった。敷地内に子安地藏堂がある。

③ 上笠田城跡

建武年間(1334～37)、多湖氏がこの地を押領し、代々居住して大きな勢力を持っていた。永禄年中(1558～70)には飯田左右衛門尉がこの城を守っていたが、織田信長の侵攻の際に滅ぼされた。南側、員弁川を臨む丘陵の端に位置し、土塁・空堀も部分的に残存。寛永年間(1624～44)に六把野井水の掘り割りによって城跡は分断される。現在、城山稻荷大明神を祀る。

④ 列車転覆事故現場

昭和32年11月25日午前8時10分頃、阿下喜発桑名京橋行きの電車が、上笠田駅西500m ほどの下り勾配S字カーブで脱線転覆し、2両は3m 下に転落した。

⑤ 龍花山覚通寺

真宗大谷派。宝徳元年(1449)、足利義政の家臣三浦清経は職を辞し、文明2年(1470)、当地に来て出家、真言宗の寺を建てた。文明11年(1479)、蓮如上人が当国巡化の際に帰依し、真宗に転じて信弥坊静真と法名した。天正5年(1577)、兵火に罹り堂宇を焼失。寛永16年(1639)、本堂を再建し、のち法灯相承し現在に至る。

⑥ 蟻坂神社

主祭神は須佐之男命。寛元5年(1247)12月の創建と伝えられる。元和9年(1623)、天和2年(1682)、寛政13年(1801)に改築されている。明治41年(1908)10月に山神社(大山祇神)・御所井社(天照大神)・火産霊社(火産霊神)を合祀した。

⑦ 相応山雲納寺

真言宗。応永3年(1396)、僧原昭が市之原裏山の堂ヶ峰に堂を造り、行基作の医王薬師如来像を安置した。弘治2年(1556)、僧慈証のとき現在地に移す。天正4年(1576)、織田信長の兵火により焼失したが、その後再建された。本堂の前に「明眼水」という井戸があって、眼病を治す霊験があるといわれる。

⑧ めがね橋

明智川穹窿橋。大正5年(1916)、北勢鉄道が楚原から阿下喜東(後の六石)まで延伸の際に造られたコンクリートブロック造りの三連式のアーチ橋。平成21年、ねじり橋と共に土木学会の選奨土木遺産に認定。

⑨ ねじり橋

六把野井水拱橋。めがね橋と同様コンクリートブロックのアーチ橋である。鉄道が六把野井水を斜めに跨いでいるため、ブロックはねじれたように積まれている。この橋とめがね橋は、施工は久米村坂井(現桑名市坂井)の郡竹治郎である。北勢鉄道の開通当時は、第1次世界大戦中で鉄材が不足しており、鉄筋を使うことができなくてコンクリートブロックで造ることになったらしい。

⑩ 瑞龍院観音堂

真宗大谷派。天明元年(1781)、篠立の長楽寺から僧抜雲(覚端)が招請されて笠田新田に来て、経力丘に庵を建てて観世音菩薩像を安置したのが観音堂の始めである。天明3年の干ばつの時、この観音に雨乞いしたところ慈雨に恵まれたので、その後、雨乞い観音といわれた。

⑪ 刻限日影石

弘化4年(1847)、笠田新田と大泉新田の分水時刻を巡る紛争を解決するため、羽津村庄屋藤谷傳之助が仲介役に入り、双方の分水時刻を定め直して合意和解した。同年5月、大泉新田庄屋懸野松右衛門の発案によって刻限日影石を建立。前の石柱の右側に「從日之出七ツ半まで大泉新田」、左側に「從七ツ半時日之出迄笠田新田」と両村の分水時刻を刻み、後方には三日月と呼ぶ「七ツ半時日影請石」と彫られた南北に長い石があって、七ツ半に石柱の影が三日月に当たるようになっている。昭和42年、県の有形文化財の指定を受けた。

⑫ 神明社・巖島神社

神明社の主祭神は天照大御神。寛永15年(1638)9月、大泉新田の正木嘉兵衛は伊勢神宮に参拝し、前月の大雨で破損決壊した溜め池工事の安全を祈願して、一の大麻を受けて帰りこれを祀って神明社を創立した。巖島神社の祭神は市寸島比売命。寛永16年(1639)に現れた弁財天の像を大溜内の天の岩に祀ったのが始まりと伝え、のち神明社の境内に遷宮。

⑬ 笠田大溜

『伊勢風土記』に野摩池(のまいけ)と記される古くからあった溜め池で、桑名藩に申し出て溜め池堤防の築造工事を行い、寛政15年(1638)3月の完成祝いには領主松平定綱が参列した。しかし、明智川の水をせき止めて造られた溜め池であるため、川の洪水によってたびたび破損、決壊した。また、明智川から流れ込む泥や砂によって溜が埋まり、貯水量も著しく減少した。宝暦(1756)、底の泥や砂をかき出して堤防をかさ上げし、中堤防を築いて洪水に備える工事が行われた。さらに昭和53年から56年にかけて県営溜池整備事業によって溜め池の改修工事が行われた。

⑭ いなべ公園

員弁大池のほとりにある自然に囲まれた公園。5つの広場や3つの橋、遊歩道や噴水などがある。